

報道関係者各位
プレスリリース 教育関連

2021年5月20日

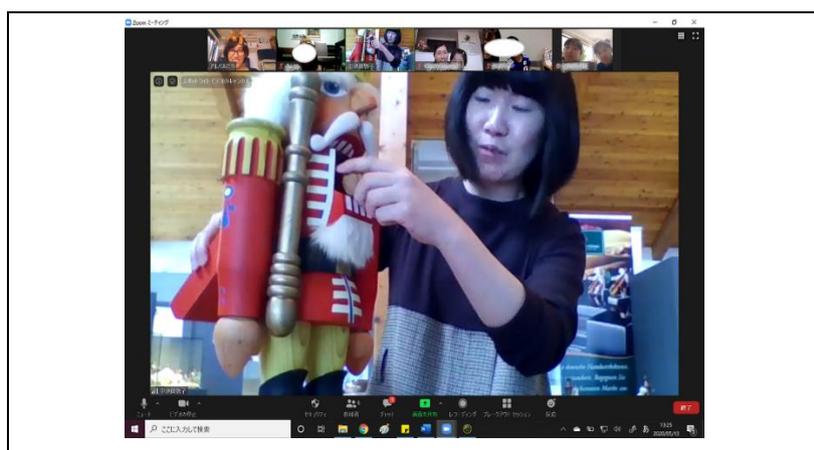
一般社団法人アルバ・エデュ

体験格差を埋める<居場所>へのオンライン授業提供

アルバ・エデュとムーゼの森が第三の居場所にオンライン社会科見学を開催

一般社団法人アルバ・エデュ（本社：東京都文京区 代表理事：竹内明日香）は、日本財団（本社：東京都港区赤坂 会長 笹川陽平）の運営する「子ども第三の居場所」にオンラインによる社会科見学「オンライン社会科見学」を提供いたします。第一回目は軽井沢ムーゼの森（長野県北佐久郡軽井沢町）にあるエルツおもちゃ博物館・軽井沢絵本の森美術館から生放送。ムーゼの森を探索し、グリム童話の謎を伝えた上で、くるみ割り人形やクリスマスキャンドルの実演を予定しています。

コロナ禍において学校で開催される遠足や社会科見学が中止となり、体験する機会が減っている子どもたち、家庭環境により外出しての体験回数が少ないと考えられる子どもたちに、オンラインで自分の行動範囲以外の場所・歴史を知ってもらい、様々な出来事への「興味を持つきっかけ」を提供します。オンライン社会科見学は2022年まで開催、海外諸都市や国内寺院、企業などを見学予定です。



写真はリハーサル時のもの

■自宅に学習する場所がない子どもたちにこそ社会科見学が必要

先進国の中でも高水準の子どもの貧困率が改善されない日本では、経済的な理由により習い事や進学をあきらめてしまったり、学ぶ楽しさを知る機会が持てない子どもがたくさんいます。

文京区こども宅食の利用者へのアンケート調査では、52.8%「年に一回程度家族旅行に行くことができない」、42.7%が「経済的な理由により、学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）ことができない」、35.1%が「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせることができない」と回答しました。（文京区こども宅食プロジェクト2019年度インパクト・レポートより）

授業についていくための学習支援事業の提供は各種団体により行われていますが、家族旅行などの「体験」をフォローするためのカリキュラムはなかなかありません。唯一の体験かもしれない学校の遠足や社会科見学がコロナで失われてしまった今こそ、社会科見学が必要と考え、子ども第三の居場所にオンライン社会科見学を提供いたします。学校へ出前授業に行き、学びの現場を自分たちの目で見てその必要をわかっているアルバ・エデュだからこそ開催する意味があると感じております。**コロナ禍で企業・館などのオンライン化が急速に進んだことを活かし、日本全国の美術館・博物館・企業などと繋がり、学校の社会科見学の範囲をこえて日本全国を学びの場所に変え、教育格差・オンライン格差を埋める活動をしてまいります。**

■一般社団法人アルバ・エデュとは

2014年12月設立（東京都文京区、代表理事・竹内明日香）

子どもたちの「話す力」を高めるための学校向けアクティブラーニングの出前講座、オンライン教育推進活動、教員研修、ワークショップ開催を実施し。2020年12月24日現在、30,000人超の児童生徒に授業を提供。

<主な実績>東京都文京区の教育分野の重点施策事業「プレゼンテーション能力向上プログラム」（平成30年度～継続中）および、デジタル教科書を作る「プレゼンテーション能力育成のためのカリキュラム開発」を受託（令和2年度）

東京都教育庁より高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム受託事業（平成29年度～継続中）、オリンピック・パラリンピック教育推進授業を受託（平成30年度～継続中）

令和2年3月から「オンラインおうち学校」を全国に提供。のべ9,500名が受講。コロナ禍により一斉休校で授業が受けられない子供たちのために、各界の第一人者が講師となってオンライン授業を提供。

なかでも海外とつないだグローバルオンラインホームルームは文部科学省が推薦。市原市 GIGA スクールアドバイザー就任（令和2年度）日本財団助成金採択団体（令和3年度）

本件に関するお問い合わせ先：一般社団法人 アルバ・エデュ（www.alba-edu.org）

担当：安達

携帯：09021520466

E-mail: mutsumi@alba-partners.com
